

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	応用倫理学
科目基礎情報						
科目番号	104210		科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	環境材料工学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	配布プリント/適宜講義内で紹介					
担当教員	濱井 潤也					
到達目標						
1.グローバル社会における多文化共存のあり方を考察し、自分の意見を述べることができる。 2.現代の戦争の形態を理解し、世界平和を希求することができる。 3.生命倫理の諸問題の特徴を理解し、自身の見解を理論的に展開できる。 4.環境倫理の考え方の特徴を理解し、自身の見解を理論的に展開できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標 1		多文化共生に必要な考え方を理解し、自由や平等などの近代以後の西洋的価値観を客観的に捉えて、異文化との実践的諸問題に有効な解答を考察することができる。	我々が普段当たり前だと考えている自由や平等などの価値観が、決して中立ではなく、ある場面では別種の不自由や不平等を生み出すことを理解し、多文化共生への問題意識を記述することができる。		自由や平等などの近代以後の西洋的価値観を無批判に受け入れ、それに反する考え方を単に間違っている、あるいは劣っていると見なしている。	
到達目標 2		諸外国や国連と日本の行動原理の違いとそれぞれの問題点を理解し、現代の紛争、内戦等の実践的問題を考察することができる。	戦時国際法や正戦論等、諸外国が戦争に対して日本とは異なった思想、行動原理を有していることを理解し、事例を分析することができる。		戦争について論じる際に、その背景構造と論点を理解せずに単に平和への感情を綴ることしかできない。	
到達目標 3		生命倫理的諸問題に対して、当事者やその家族、医療関係者当等の視点から考察すべき論点を多面的に抽出し、問題の全体像を把握したうえで自身の見解を述べることができる。	自己決定権やQuality of life等、人間の尊厳を巡る諸概念の意味を理解し、生命倫理的事例における論点の対立構造を記述することができる。		生命を巡る問題に際して、倫理的問題として取り組むのではなく単に自身の主観的な好き、嫌いでしか考察できない。	
到達目標 4		人間中心主義、自然中心主義の双方の立場を総体的に把握し、実践的な環境問題に対してそれらを応用的に用いて自身の見解を述べることができる。	人間中心主義、自然中心主義の長所と短所について理解し、それぞれの思想についてその特徴を記述することができる。		環境問題を単に技術的問題、あるいは個々人のボランティア精神に依存した問題として捉え、政治・社会的問題として捉える視点に欠けている。	
学科の到達目標項目との関係						
教養 (D)						
教育方法等						
概要		本科1年の「倫理」の授業で学習したことを基盤として、哲学・倫理学の先人達及び現代の思想家の考え方をを用いて、現代社会の様々な問題を考えてみましょう。本授業では、「技術者倫理」を除く代表的な応用倫理学分野、「生命倫理」「戦争倫理」「多文化社会論」「環境倫理」等を幅広く採りあげます。				
授業の進め方・方法		基本的には講義形式で進めますが、グループディスカッションやプレゼンテーション等も積極的に取り入れる予定です。				
注意点		本授業では、現代社会が実際に直面し、乗り越えなければならない実践的な問題を主に四つの領域に区分して考察します。日々ニュースになる話題においても、授業で学んだことを活かして考え、自分の意見をはっきりと表現できるようにしておきましょう。				
本科目の区分						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	哲学と倫理、そして応用倫理		1-4	
		2週	多文化社会論への導入：グローバリズムとリベラリズム		1	
		3週	ロールズの正義論		1	
		4週	タブーと境界：倫理の民俗学的考察		1	
		5週	ケベック問題から考える		1	
		6週	テイラーのコミュニタリアニズム		1	
		7週	ウォルツァーのコミュニタリアニズム		1	
		8週	戦争倫理への導入：現代の戦争		2	
	2ndQ	9週	カントの永遠平和論		2	
		10週	ヘーゲルの戦争論		2	
		11週	ウォルツァーの正戦論：開戦法規		2	
		12週	ウォルツァーの正戦論：交戦法規		2	
		13週	保護する責任と人道的介入		2	
		14週	人間の安全保障論		2	
		15週	まとめ		1-2	
		16週	期末試験		1-2	
後期	3rdQ	1週	生命倫理学への導入：医療技術の進展と倫理問題		3	
		2週	人間の尊厳と自己決定権		3	
		3週	生きる権利と死ぬ権利		3	

		4週	安楽死・尊厳死問題の現在	3
		5週	どこからが人間か？：人工妊娠中絶	3
		6週	どこまでが人間か？：脳死と臓器移植	3
		7週	優生学とエンハンスメント	3
		8週	環境倫理学への導入：自然とは何か？	4
	4thQ	9週	なぜ解決しないのか？：人間中心主義	4
		10週	自然を道徳の対象に：自然中心主義	4
		11週	滅びよ人類！？：自然中心主義の行きつく果て	4
		12週	自然中心主義の妥協：自然の代理訴訟	4
		13週	人間中心主義の復権：環境プラグマティズムと都市の環境倫理	4
		14週	応用倫理学と現代社会	4
		15週	まとめ	3-4
		16週	期末試験	3-4

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	

評価割合

	試験	レポート	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	70	30	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0